

山口新聞

発行所
みなと山口合同新聞社◎
〒750-8508 下関市東大和町1丁目1-7
☎083-266-3211
http://www.minato-yamaguchi.co.jp/

2013年(平成25年)

11月14日

木曜日

復刻版「ふく笛」届く

下関市立
美術館
きょうから河村幸次郎展



下関出身の実業家で美術品収集家としても知られる河村幸次郎(1901〜94年)が創案した郷土玩具「ふく笛」の復刻版が13日、下関市長府黒門東町の市立美術館に届けられた。

長男の洋一郎さん(85)と長女の美代子さん(70)ら親族や復刻プロジェクトのメンバーが訪れ、濱本聰館長に手渡した。開館30周年記念展「河村幸次郎と美の世界」(14日〜12月23日)の初日に来観者200人に先

着順で贈呈する。

ふく笛は、河村が1935年に民芸研究家らと結成した「下関郷玩同好会」の会誌「河豚笛」創刊号でデザインを発表。市内の主な神社に奉納されたが、現在は数点が残るのみで、「幻の郷土玩具」とされている。

復刻プロジェクトは美代子さんが約1年前に発案。沖縄県石垣市の陶芸家、金子晴彦さん(61)、早稲田大学創造理工学部の渡辺仁史教授、福岡県で津屋崎人形を手掛ける原田誠さん(52)が協力し、最新の設計と伝統の技術を駆使して完成させた。

美代子さんは「皆さんボランティアでやっていたいただき、立派なものが出てきた。下関のシンボルとして未来に伝えてほしい」。濱本館長は「すてきなものが完成した裏には大変なご苦労があったと聞き、感激している」と礼を述べた。

河村幸次郎は晩年に自身の美術コレクションを下関市に寄贈。これらの作品が基礎となって市立美術館が設立され、開館時には名誉館長の称号を授けられた。

13日、下関市